山弓連

平成7年 第3号

ミニ国体 健斗及ばず 涙のむ

惜しい試合も いくつか――

ミニ国体（国体関東予選）が7月26日水戸市で開催され、各種別関東2のわくを目ざして激しい戦いが繰り広げられた。山梨勢も戦われ健斗したが、戦い利あらず、ここは関東の厚い壁を破ることが出来ず敗退。本大会出場権を得ることはできなかった。惜しくも22中（八位）通過有望と思われたが、意外や意外、遠的組不調16中（六位）となって万事休す。総合三位の涙ものむ。つかみかけた球をとり落とした感。

○少女～こちらは出だしの近的でつまずき12中（八位）となって望み消える。しかし遠的でねばりを発揮して16中（四位）とがんばったが時すでに遅く、総合五位。逆すがえすも近的不調が残念。

○少男～一番乗りの近的でいきなり22中（八位）通過有望と思われたが、意外や意外遠的組不調16中（六位）となって万事休す。総合三位の涙ものむ。つかみかけた球をとり落とした感。

○少女～こちらは出だしの近的でつまずき12中（八位）となって望み消える。しかし遠的でねばりを発揮して16中（四位）とがんばったが時すでに遅く、総合五位。逆すがえすも近的不調が残念。

○成女二部～やはり近的の出だし悪く14中（八位）が精習どおりの的中が出ない。遠的になって、ややアップが戻り、14中（八位タイ）となったが挽射で敗れて三位。結局総合五位となる。こちらも恨みの近的。

○成女一部～最後の望みを託した種別だったが……。いま本が出ない。各平の力が拮抗して一本三本を争う接戦だったが、おしい通りの的中が出ていれば一斉に上位に進出できた。惜しい結局総合五位。

○成女二部～最後の望みを託した種別だったが……。いま本が出ない。各平の力が拮抗して一本三本を争う接戦だったが、おしい通りの的中が出ていれば一斉に上位に進出できた。惜しい結局総合五位。

かして各種別とも関東予選突破は成らず。本大会出場は久々に成年男子のみということになった。しかし今年成年は大巾に選手の入れ替えを行った。しかし今年成年は大巾に選手の入れ替えを行った。年であり、「来年こそ」を目ざしてがんばってほしいものである。本大会での成男の健斗を期待するものである。

臨時中央審査（石和）

錬士三名・六段二名 合格

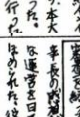
○○○○○○○○○○○○○

9月2・3日にわたり、中央臨時審査が石和道場で開催された。受審者は錬士四三名、六段五名（名）と級六四名という未曾有の人数となり、特に初日の錬士審査は終了が夜の九時近くになるという始末で、運営に携った役員（山梨県）の苦労は大変なものだった。

9月2・3日にわたり、中央臨時審査が石和道場で開催された。受審者は錬士四三名、六段五名（名）と級六四名という未曾有の人数となり、特に初日の錬士審査は終了が夜の九時近くになるという始末で、運営に携った役員（山梨県）の苦労は大変なものだった。

表は、受審者にとっても我慢きびしい（特に暑さ四度の四月金地だから）この時期の審査は、たくさんの汗に濡れた肌ぬぎに、ひと苦労している人が続出した。しかし、苦労の甲斐あって錬士25名（山梨3名）六段9名（山梨2名）がみごと合格、祝杯をあげ、喜びの日となった。

審査を終えて（石原理事長の挨拶）



炎天下の審査、ご苦労様でした。なかなかの運営の日程からはみだされた役員のご協力に心から感謝する。感心したのは遠方の受審者で欠席した人が何人かだが、前日までにすべて欠席通知をよこしたこと。流石に高段受審者だけあって、エチケットを心得ていると思った。われわれも十分心すべきことである。

見知らぬ名前？といぶかる人もいるが、まれもその者5年間に東京から移転してきた板木師範の出現、大臣は平生まれの27才。現在は石和市に居を構え、居住、移ってきてすぐに山梨県連に登録して稽古に励む。その頃、その熱心な所作、立居振舞動作とそして熱心な所作、立居振舞動作とそして熱心な所作、立居振舞動作とそして